

## 「エサ押し」の本当の意義



TMR 給与のポイントの一つが「エサ押し」なのはいまさら言うまでもありませんよね。

「エサを沢山食べさせたかったらエサ押しをしっかりおこないなさい」というのはTMRに限らず昔から云われてきたことだと思います。

たしかに多くの調査が「エサ押しの頻度が多いと採食量(DMI)が増える」という因果関係を証明しています。

しかし、ほとんどの調査がエサ押し頻度を増やしても

「1日の採食回数や採食時間は変わらない」

ことも報告しています。

つまり「エサ押し」自体が直接的に牛の採食量を上げるのでは無いということです。

では、エサ押しをするとなぜ採食量が増えるのでしょうか???

これらの調査が共通して報告しているのは、

「エサ押し頻度と牛の休憩時間との間には正の相関がある」

ということ。つまり、エサ押し頻度が増えると牛の休憩時間も増える、ということです。

頻度の高いエサ押しによって、餌槽には常に食べることのできるエサがある状態ができます。



牛はふとエサを食べたくなった時に思い通りエサを食べることができ、短時間でたくさんのエサを効率よく採食できるようになります。

そして休憩時間により多くの時間を割くことができるわけです。

牛は休憩中にもっとも多く反芻をおこない、もっとも多く唾液の分泌が起きます。そして採食したエサを効率よく細かく噛み砕き、安全に消化スピードを速めることで、いち早く次の採食行動に向かえるわけです。

「よくねる牛はよく食べる」と昔から言われている通りですね。



エサ押しが十分におこなわれておらず、牛が餌槽にいてもエサが遠くにあると、精いっぱい首と舌を伸ばして何とかエサを食べている風景をたまに見かけます。

このような採食行動をとらせることで牛はより採食に時間をとられ、休憩時間を削ることになるでしょう。

結果的にエサの消化スピードが落ち、採食量は上がらない、というストーリーになるわけです。

ではエサ押しの頻度はどれくらいでおこなうのがいいのでしょうか？

もうお分かりですよ？答えは

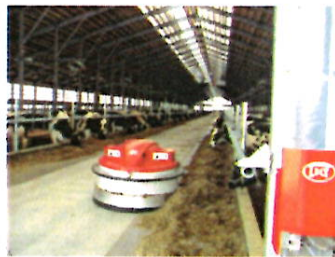
「エサを常に採食できる状態を保つのに必要な頻度」です。

それは農場の管理によって違います。

- ・ 給餌回数とタイミング
- ・ 2口か3口か
- ・ 餌槽の構造（馬栓棒かスタンションか）

などの影響をうけるので自分の農場ごとのパターンを掴むことが重要です。

エサ押しロボットの利用はとても有効です。いろんなロボットがあります。



おなじみの赤いやつエサをただ押すだけの機能のロボット



オーガーの回転で寄せるタイプ  
TMRの再攪拌にもなる

佐竹直紀